

「ここが聞きたいアザレアネット～診療報酬加算や新機能等についての質疑応答を中心に～」

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院医療情報部部長・久留米医師会理事 荒木 昭輝

アザレアネット運用開始した頃に開催した体験講習会では ID-Link に関する初歩的な事項についてご説明しました。その後利用者が増えるにつれ、いろいろな要望を頂きましたし、いろいろな活用法があるという活用事例のご報告も頂きました。今回の講演ではこの間の質疑応答のまとめを行い、要望に対するご回答という形で新機能のご紹介を行い、併せて昨年4月の診療報酬改定で算定可能になった項目についてご説明したいと思います。

1. ID-Link とアザレアネットについての「おさらい」

ID-Link は函館の SEC 社が開発し、NEC 社が全国販売している製品ですが、トップシェアで既に 36 都道府県 6217 施設で利用されています（うちデータ開示している施設は 345）。それぞれの施設での患者 ID を最初に Link しておくので（だから ID-Link というネーミング）、自分の施設の ID を入力するだけで 1 つのカレンダー画面に多施設の診療情報を並べて表示することが可能です（図 1）。インターネットのブラウザを使用しますが、非常に使いやすく、コンピュータが不慣れな方でも十分使えます。カレンダー画面に表示されている薬のアイコンをクリックすれば、その日に処方された処方箋の内容を見ることが出来ますし、各薬剤名をクリックすれば、日本医薬情報センター(JAPIC)の添付文書情報を見ることが出来ますので、ジェネリックの場合重宝します。試験管アイコンをクリックすれば、臨床検査結果がいわゆる短冊形式で表示されます。レポートのアイコンをクリックすれば、画像・内視鏡・病理検査の結果レポートが PDF で表示されます（図 2）。「画像一覧」の項をクリックすれば、過去に撮影された画像検査の一覧が表示され、希望の検査をクリックすれば、DICOM ビューワが起動して画像が表示されます（図 3）。「文書一覧」をクリックすれば、過去に作成された文書のタイトル一覧が表示され（退院サマリや看護サマリなど）、希望の文書をクリックすれば、その文書が PDF で表示されます（図 4）。「チャート表示」をクリックすれば、入院患者の温度版が表示され、「ノート」をクリックすれば、医師記録や看護記録が表示されます（図 5、6）。このように基幹病院の電子カルテのほとんどの情報を表示する機能を持っています。

図 1

カレンダー表示→オーダ参照

ID-Link

患者 ID: []

2015 年 02 月 28 日

診療内容

処方箋

検査結果

画像

※他施設の診療内容も同一のビューで参照可能
 ※表示内容は時系列
 ※自施設の患者IDで紹介患者を操作可能
 ※オーダー参照、画像参照はリアルタイム処理

検査項目名称	結果値
Na	143.3 -- 0
K	3.65 -- 0
Cl	106.8 -- 0
BUN	16.9 -- 0
尿酸	7.3 H 0
γ-GTP	0.94 -- 0
中性脂肪	91 -- 0
HDL-C	38 L 0
LDL-C	117 -- 0

図2

カレンダー表示→レポート参照

The screenshot shows the ID Link calendar on the left. An orange arrow points from a date on the calendar to a medical report on the right. The report is titled "画像診断報告書" (Image Diagnosis Report) and includes patient information, examination details, and a description of the findings. At the bottom of the report, there are three small CT scan images.

図3

カレンダー表示→画像参照

1. 画像一覧クリック

The screenshot shows the ID Link calendar. The "画像一覧" (Image List) button in the left sidebar is highlighted with a red box. An orange arrow points from this button to the next screenshot.

2. 画像一覧表示

The screenshot shows a table of image data with columns for date, time, and image name. An orange arrow points from the table to the next screenshot.

3. 画像参照

The screenshot shows four CT scan images arranged in a 2x2 grid. An orange arrow points from the image list table to this view.

図4

カレンダー表示→文書参照

1. 文書一覧クリック

The screenshot shows the ID Link calendar. The "文書一覧" (Document List) button in the left sidebar is highlighted with a red box. An orange arrow points from this button to the next screenshot.

2. 文書一覧表示

The screenshot shows a table of document data with columns for date, time, and document name. An orange arrow points from the table to the next screenshot.

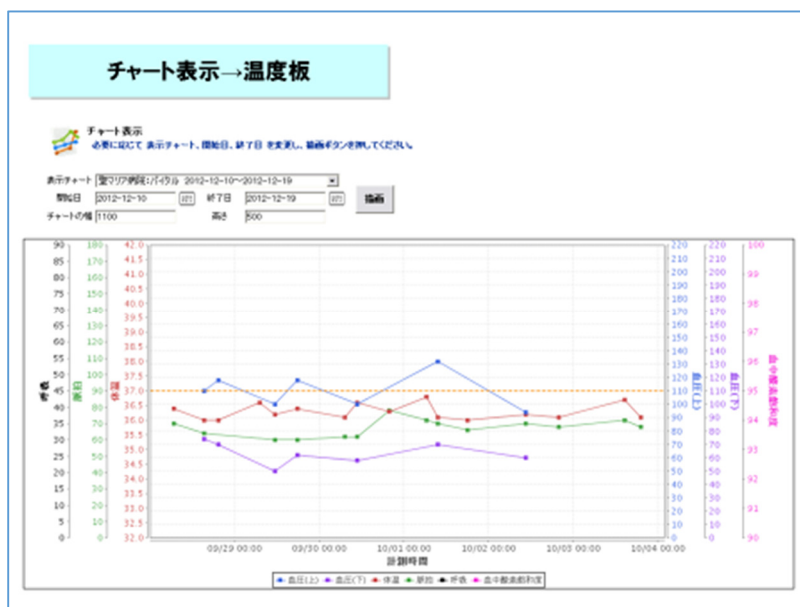
3. 文書参照

The screenshot shows a document titled "退院サマリ" (Discharge Summary) with various fields for patient information and medical history. An orange arrow points from the document list table to this view.

図 5



図 6



アザレアネットの協議会（くるめ診療情報ネットワーク）は久留米市、4 医師会（久留米、小郡三井、大川三藩、浮羽）、4 開示病院（聖マリア、嶋田、天神会、久留米大学）がお金を出しあって運営されていますが、システム構築と保守費は各々の開示病院が負担しており、国や県の補助金を利用していないのが特長です。他地区では連携先への診療情報開示システムは各基幹病院が別個のシステムを選択してしまい、機種統一に失敗した事例もあって、国の補助金はそれによって地域内で機種統一を促すという目的もありましたが、久留米では機能分化が進んでいて N:N の連携が普通に行われていたため、クリニックの先生方に機種統一への期待が高く、補助金なしで機種統一できた事例としてユニークです。

ただ、補助金がない分、各開示病院としては開示システムとして有効に活用されているかは経営陣によって厳しく評価されますし、次回のサーバの更新が円滑に行われるかは、クリニックの先生方の利用頻度も関係してきますので、せっかく構築されたシステムが存続していけるようにご理解・ご協力をお願いしたいと思います。

もう 1 つの特長は隣接する佐賀県のピカピカリンク及び八女筑後ネットワークとの連携が容易なことです。同じ ID-Link を利用していますので、通常の運用と同様に連携できるケースがほとんどです。この 2 つの地域で連

携可能な施設の一覧はアザレアネットのホームページに掲載されています。それ以外の施設との連携が必要な場合は事務局にご相談下さい。

各開示病院が開示している診療情報もホームページに掲載しています。病院によってシステムの制約があったり、開示ポリシーが異なり、統一はされていません。要望があれば各開示施設に直接お願いします。

2. 活用法

運用開始して多くの先生方が利用されていくにつれて、いろいろな使い方があることが報告されてきました。当初想定されていたのは次の①～④です。

①開示病院に検査依頼した患者の情報を見るケース

画像検査であれば、報告書が郵送されてくるのを待たずに、早ければ検査日の夕方には報告書は出来ていますので、結果を早めに知ることが出来ますし、画像も見ることが出来ます。

②開示病院に紹介した患者の経過確認

退院後にサマリ等の資料が郵送されてきていると思いますが、システムを使えば入院中にどんな検査が行われたのか、どんな治療が行われて、どんな薬剤が使われたのかなどをリアルタイムに知ることが出来ます。クリニックで外来の診察が始まる前に、紹介で入院された患者の昨日の診療内容をチェックする「ID-Link 回診」を行う先生もいらっしゃるようです。

患者の家族もかかりつけである場合は、家族の受診時に患者の経過を説明することも出来ますし、退院後の本人への説明もその間の情報を使って行い、信頼感にも繋がっているようです。

③開示病院から逆紹介された患者の情報を見る

今までは紹介状とそれに添付された資料しか情報がありませんでした。すなわち、紹介元の医師が必要と思った情報しか提供されていなかったのですが、それでは不足するケースでは都度情報提供の依頼が必要でした。システムを利用すれば、不足情報を即座に入手することが出来ます。

④初診患者の情報を開示病院から得る

今までは初診患者の診断は本人の間診情報をもとに行われていましたが、開示病院で手術したなどの履歴が分かれば、システム経由で過去の診療情報をすぐに得ることが出来ます。それをもとにして診断できますので、より正確で迅速な診断が可能となります。

⑤以前開示病院を受診していた患者の情報を見る

開示病院の過去の情報を利用した診療を経験し、その有用性を認識した先生方はいろいろなケースでも利用されるようになりました。患者の記憶というのは結構不正確なことが多く、疑問が生じても、手間がかかるので確認できないことが多かったと思いますが、システムを利用すれば確認が容易です。それによって診療に役に立った事例の報告が全国的にも増えているようです。

⑥開示病院と併診中の患者の情報を見る

過去情報だけでなく、併診患者の情報も有用なケースがあるようで、活用が進んでいます。循環器疾患でクリニックに受診中で、糖尿病で開示病院を併診するなどいろんなパターンがあります。検査結果を参考にしたり、処方薬を確認したり、いろいろな活用例があるようです。

⑤や⑥のような使い方はネットワーク利用開始には想定されていませんでしたが、システムがあるからこそその活用法です。今までは情報を知らずに診療してきたことが分かり、「知らぬが仏」だったことを痛感されるそうです。かかりつけ医の機能強化に繋がりますので、日本医師会の ICT 利用戦略にも合致します。皆さんも是非実践して頂ければと思います。

3. アザレアネットを始めるには

利用状況ですが、先月末時点で 8500 名程度の患者が登録されており、利用者数もアクセス数も増えてきています。特に久留米大の開示が始まった頃に利用者数が伸びています。利用を開始するには、久留米医師会内の事務局あるいはアザレアネットのホームページから協議会参加申込書と ID-Link 申込書を取得し、それらを事務局に送付すると、販売元の日本電気によって ID-Link 閲覧施設として登録され、デジタル証明書インストール CD が送付されてきます。インストール操作等が不安な方は事務局に初期サポートを依頼することが出来ます(無償)。協議会の委託業者と日程調整して下さい。システムは無償で使用できますので、インターネットに繋がるパソコンのみご用意下さい。委託業者がデジタル証明書をパソコンにインストールし、操作説明までやってくれます。

昨年 4 医師会の会員対象に行ったアンケート調査では、まだ使用されていない先生方が心配されているのは、IT に詳しくないので使いこなせるか、が第一でしたが、実は前述のように初期サポートを準備していますので、是非ご利用頂ければと思います。

アンケートでもう 1 つ課題となっていたのが、同意書取得方法の簡素化です。個人情報保護は厳密に行わねばなりませんので、利用時に患者からの同意書取得はやはり必要ですが、説明は必ずしも医師が行う必要はありません。積極的に利用されているクリニックでは看護師やクラークにやってもらうことで先生方に負担がかからないように工夫されているようです。

4. とびうめネットや介護ネットワークとの関係

アザレアネットでは開示病院の診療情報を開示しており、救急時にお互いの情報を参照できるように現在準備中ですが、県医師会が最近運用を開始したとびうめネットはクリニックが登録した在宅患者の診療情報を基幹病院の救急で利用するものであり、相補的な位置づけとなります。両者を組み合わせて活用していくことで、久留米の救急体制の強化が図れると期待しています。

地域包括ケアシステムでは、介護情報の共有を行うネットワークの必要性が指摘されていますが、他地区では ID-Link に介護情報も載せて運用しているケースと ID-Link と介護専用のネットワークを組み合わせ運用しているケースとがあります。前者の場合、診療情報と介護情報は機微性が異なりますので、職種によってアクセスをコントロールする必要があります(ID-Link にはその機能は備わっています)。後者の場合、どのようなネットワークと組み合わせるかが問題で、地域内で機種統一を考えておくべきでしょう。とびうめネットは介護を含めた多職種ネットワークの運用も開始していますので、これを利用するという選択肢もあります(追加: 現在久留米医師会内部で検討中です)。

5. 診療報酬加算について

昨年 4 月の診療報酬改定で、システムを利用して診療情報を閲覧し、診療に活用した場合に、電子的診療情報評価料(30 点)が算定出来るようになりました。事前に届出が必要で、開示施設から閲覧施設宛の紹介(診療情報提供書)を受けた患者の検査・画像情報をアザレアネットで見、その評価の要点を診療録に記載しておくことが必要です(1 回の診療情報提供に対し 1 回に限り)。2. でご紹介した活用法の②③のケースに限定され、①の閲覧施設から検査依頼は算定不可です(④以下についても適用範囲を拡げてくれるように国に要望中です)。

同じく今回算定可能になった検査・画像情報提供加算ですが、開示病院しか算定できないと思われていましたが、日本医師会が厚労省に問い合わせたところ、条件を満たせばクリニックも算定可能と判明しました(ただしクリニックの場合は 30 点)。方法は 2 つあり、診療情報提供書を今まで同様紙の形で運用する場合は、投薬情報・検査結果・画像を ID-Link にアップロードして、紹介先施設で閲覧可能にする必要があります。

医師資格証をお持ちの先生は日医の ORCA プロジェクトで開発された電子紹介状ソフト「MI_CAN」で投薬情報・検査結果を紹介文に入れ、画像を貼り付けて紹介状を作成し、同じく開発された電子署名ソフト「SignedPDF Client ORCA」で電子署名を入れ、ID-Link にアップロードすればいいようです。MI_CAN や SignedPDF Client ORCA については次の資料の P18,P22,P29-30 などをご参照下さい。

ただし、いずれも実際の運用法はもう少し詳細な検討が必要ですので、詳細が決まりましたらホームページやユーザサポート ML で広報します。

6. その他の Q&A

運用開始後に体験講習会や直接問い合わせがあったご質問の中から代表的なものや他の方の参考になるものに対して、回答を用意しました。

Q：閲覧施設の情報が意図せぬうちに開示されることはありませんか？

A：心配ありません。閲覧施設の電子カルテを ID-Link に接続するか、ID-Link に直接手入力してアップロードしない限り、情報は開示されません。

Q：検査値をグラフ表示できませんか？

A：ID-Link の機能として、サマリービューが追加されたので、開示施設での検査項目のコードマッピング作業が完了すれば、グラフ表示可能となります。複数施設の検査値も 1 つのグラフに表示出来ます。現在コードマッピングを行う検査を選定中です。ただ、理想的な表示のためには、基準範囲の標準化など課題は残っています。

Q：最新データ取得操作はやはり必要ですか？

A：開示施設に厚労省標準規格ストレージ SS-MIX2 を導入することで不要となります。各開示施設で導入検討中です。なお、聖マリア病院は次年度中に導入予定ですが、開示施設によって機能差が生じますので、最新情報取得操作の要否が画面上に表示される改修を計画中です。

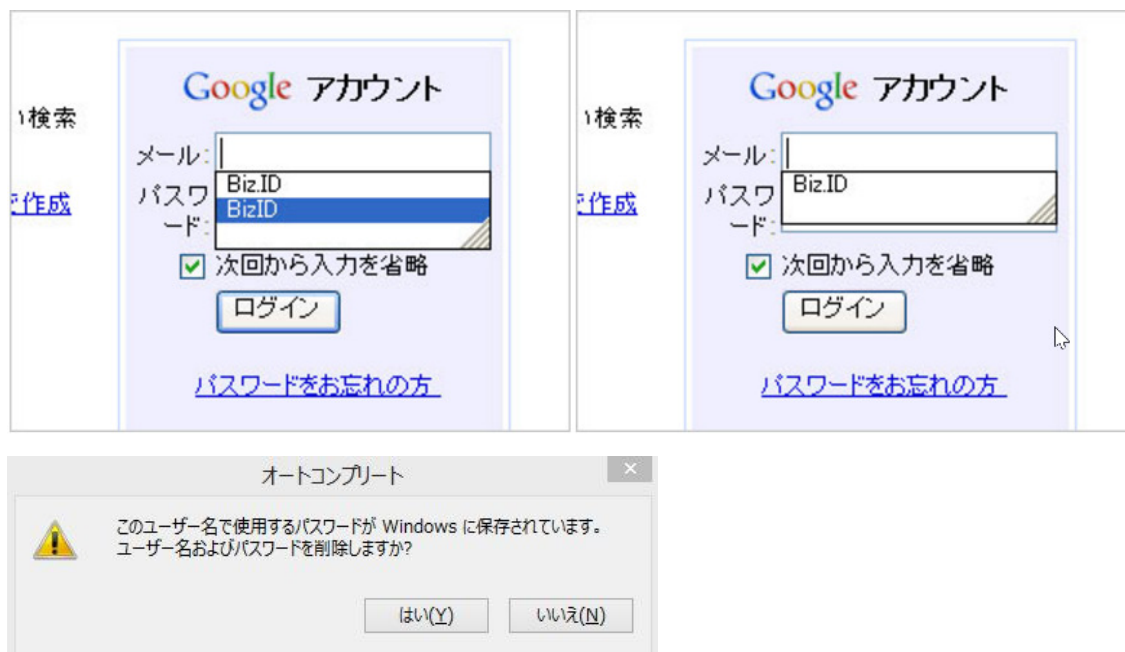
Q：閲覧施設でも電子カルテが必要ですか？

A：閲覧施設には電子カルテが装備されている必要はありません。インターネットに繋がる PC のみで大丈夫です。

Q：ブラウザのオートコンプリートの間違った ID 履歴を削除出来ませんか？

A：インターネットのブラウザは入力されたデータを次回も入力しやすいように自動提示する機能が備わっています（オートコンプリート）。ID-Link の ID も一度入力すると自動提示されますので、それを選択するのみでよく、便利な機能ですが、一度 ID を間違えて入力すると、それが選択肢に出て来てしまい、それが複数になると煩わしいものです。

次の図の左にあるように、間違えて入力したものを選択して「Delete」キーを押せば、履歴を個別に削除可能です。確認画面が出たら、「はい」をクリックして下さい。



アザレアネットは久留米ならではの成り立ちをしたネットワークで、補助金なしで立ち上げて、近隣との連携も実現した「久留米モデル」は全国的にも認知されています。先生方にどんどん使って頂いて、さらに発展させて頂ければと願っていますので、よろしくお願いします。